

内容項目		小項目評価 (法人自己評価)	事務局(案)	大項目評価 (事務局案)	小項目評価に対するコメント (判断理由、評価の意見、指摘等)	大項目評価に対するコメント (判断理由、評価の意見、指摘等)	
第1市民に 対する目 標を達 成する ため の業 務の 質の 向上 に	1 市民のための病院としての役割の明確化				<ul style="list-style-type: none"> ・救急総合診療科の創設は評価できる。今後の充実を期待したい。 ・「高度な総合的医療の提供」について短期間に体制を整えたことは評価できる。市として、この方向性を何らかの形でバックアップする体制も必要であると考え。 ・地域医療支援病院の申請も提出しており、取得見込みも併せ今後の経営に期待する。 ・専門分野での研究会、体験学習会等を開催することが望まれる。 		
	(1)高度な総合的医療の提供	3	3	B			
	(2)地域医療支援体制の構築	4	4				
	(3)市と連携した政策医療の実施	3	3				
	(4)市内で不足する機能の補完	3	3				
	2 市の「安心の医療確保政策」に基づく医療機能の整備				<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度に新たに救急医を招聘し、救急総合診療科を創設したことは評価できる。 ・救急患者を積極的に受け入れ、目標値を大きく上回る救急車搬送患者数が実績として出ていることは高く評価できる。 ・平成25年度にはDMERC車両の活用なども計画に上がっているが、更なる救急医の確保や各診療科の支援体制について明確な記述がなく、現場の疲弊をもたらさないかという懸念は残る。 ・個々の医師の努力から、チーム医療の総合力への転換をはかり、総合診療・総合救急診療の特色を来院者がみえる形にしていけることも必要だと考える。 ・緩和ケアについては市内にも施設があるため、市民病院における緩和ケア設置については検討する必要がある。 ・心疾患への対応は評価できる。 ・周産期は産科を主にせず、婦人科など人材を活かした診療を期待する。 ・引き続き呼吸器科医師の確保が必要である。 ・内科系医師が増員となり、医師会との連携の中で、地域医療として一定の中心的存在となれる体制になったことは評価できる。 ・救急搬入後の入院が半数程度である。今後は体制が強化され、医師の増員ができれば評価は上がる。 ・救急患者の受け入れは地域ニーズに適合しており評価できる。 ・ICUをもっと稼働できるようにするとさらに救急医療が充実する。 ・救急医療については、「5」評価はやや甘いと思われる。「4」が妥当。 		
	(1)がん	3	3	B			
	(2)脳血管疾患	3	3				
	(3)心疾患	4	4				
	(4)周産期・小児医療	3	3				
	(5)消化器系疾患	3	3				
	(6)呼吸器系疾患	2	2				
	(7)救急医療	5	4				
	3 利用者本位の医療サービス				B	<ul style="list-style-type: none"> ・退院前訪問や在宅復帰後訪問等の退院支援については、退院調整委員会が設置されており、一定の評価はできるが、このテーマは重要であり、さらなる充実を期待したい。 ・インフォームドコンセントは、手術、検査、治療のすべての面で実際されており、医師説明の際には看護師が同席し診療確認がなされている。 	
	(1)医療における信頼と納得の実現	3	3				
	(2)利用者満足度の向上	3	3				
	4 医療の質の向上				B	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットについて重大なものは、医療安全委員会に報告する体制が取られており、対策としてポスター掲示や院内放送、院内ラウンドなどの対応が行われている。 ・「医療事故や院内感染防止対策の徹底」の項目は、医療事故が起こったことに対する対策を講じることは、当然のことであり、その成果が次年度以降に出てくることを期待する。 ・病院機能評価の審査が厳しくなり、その認定を受けるための労苦とその効果に疑問が残る。 	
	(1)継続的な取組による質の向上	3	3				
	(2)医療事故や院内感染防止対策の徹底	4	3				
	(3)コンプライアンス(法令・行動規範の遵守)の徹底	3	3				
5 地域とともに推進する医療の提供				A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に開かれた病院としての取り組みが進んでいることは評価できる。今後の継続を期待したい。 ・紹介率、逆紹介率の向上は評価できる。 ・オープン検査については、昨年度と同件数となっている。件数増加の施策の検討を要する。 ・オープン検査や紹介率の向上、病院全体で取り組む姿勢が見られたことは評価できる。 ・病院まつりを開催し、多くの来訪者があった点や、地域の方が病院に対して関心を持たれたという点について評価できる。 		
(1)地域医療機関との連携	4	4					
(2)地域社会や地域の諸団体との交流	4	4					
(3)積極的な情報発信	3	3					

内 容 項 目		小項目評価 (法人自己評価)	事務局(案)	大項目評価 (事務局案)	小項目評価に対するコメント (判断理由、評価の意見、指摘等)	大項目評価に対するコメント (判断理由、評価の意見、指摘等)
第2業務 効率化の 改善及び	1 総合力による医療の提供				<ul style="list-style-type: none"> ・NSTやICTなどプロジェクト的なチーム医療だけではなく、普段の医療提供でのチーム医療の強化も期待したい。 ・情報の一元化については引き続き事務局部門内にノウハウの蓄積が必要である。 ・栄養管理や感染管理の成果(栄養の改善、データの改善など)が見えるように、データ化し出す必要がある。 ・クリティカルパスを適切に整備できていることは評価できる。 ・医療経営や医療制度の医療ニュースについて、オーダーリング端末に見られるようになったが、必要なものを必要な形で加工することが望まれる。 	
	(1)チーム医療と院内連携の推進	4	3	B		
	(2)情報の一元化と共有	3	3			
	2 医療職が集まり成長する人材マネジメント					
	(1)医療職の確保	3	2	C		
	(2)魅力ある人材育成システム	3	3			
	(3)人事制度の整備	3	3			
	3 経営体制の確立				<ul style="list-style-type: none"> ・理事会主導による業績改善などの取り組みは成果を出したと評価できる。 ・全体の組織化及び事務職の専門性向上については継続努力が必要である。 ・BSCについてはさらなる活用を期待したい。 ・市からの派遣職員の法人採用職員への置き換えは着実に進んでいるものの、専門知識が豊富な中間管理職等の整備が遅れている。 ・基礎的なノウハウをいかに蓄積できるかが重要である。 	
	(1)役員の責務	3	3	B		
	(2)組織と管理運営体制の構築	3	3			
(3)事務職の専門性の向上	3	3				
第3財務 内容の 改善	1 業績管理の徹底				<ul style="list-style-type: none"> ・DPC分析や原価計算などの取り組みは始められているが、事務局部門での分析およびフィードバックのノウハウ蓄積が必要である。 ・収支に影響するデータ項目を週単位でモニタリングできるシステムを検討することが必要である。 ・レセプト査定への評価と再審請求の確実な実施が必要である。 ・材料費対医業収益比率については、診療内容の変化で材料費等も変化すると考える。 ・材料費率対医業収益比率が低い水準である一方、経費対医業収益比率の方が少し高い水準である ・病床利用率が63%であるにもかかわらず収支黒字を確保している努力は評価する。 	
	(1)収支の改善	3	3	B		
	(2)管理体制の充実	3	3			
	2 安定した経営基盤の確立	4	4	A	<ul style="list-style-type: none"> ・収支黒字となった点は評価できる。 ・経常収支に関する目標を達成されている点は評価できる。一部項目につき、未達となっているため、「4」評価が妥当。 	